



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2019年10月24日 No.138



東京2020オリンピック パラリンピックの成功にむけて

申第12号「東京2020オリンピック・パラリンピックに関する申し入れ」を提出！

「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催まで一年を切りました。東京都を中心に43会場・55競技が開催されますが、会場の多くがJR東日本エリアにあることから、開催期間中は外国人を含む多くのお客さまが当社をご利用されるとともに、会場周辺の観光地などにも多くのお客さまが足を運ぶことが予測されています。



世界が注目する「東京2020オリンピック・パラリンピック」の成功にむけては「安全・安定輸送」のもと「旅客鉄道輸送オフィシャルパートナー」として、グループ会社を含むすべての社員が重要な役割を担うこととなります。

社員の不安や疑問を解消し、本番に臨もう！

世界各国から約1,000万人の観客が、短期間に集中してご利用になることを予測して、すでに「駅の体制」や「観客輸送ダイヤ」などが検討されていますが、組合員や社員からは日常業務の変化などに対して不安の声が寄せられています。

東日本ユニオンは「東京2020オリンピック・パラリンピック」を成功させる立場から、現段階におけるハード・ソフトの両面や開催前と開催中の課題について労使で議論するため、10月23日に申第12号「東京2020オリンピック・パラリンピックに関する申し入れ」を経営側に提出しました。

【主な申し入れ項目】

- スムーズにご利用いただくための情報提供と快適な旅客鉄道輸送サービスの提供について、課題を明らかにすること。
- 終電延長を行う線区における駅の改札業務、ホーム業務、信号業務の要員確保の考え方を明らかにすること。
- 終電延長を行う線区における保守間合い時間減少に伴う作業制限の考え方を明らかにすること。
- 終電延長線区、増発線区における車両検査の要員確保と検査周期の考え方を明らかにすること。
- 増発を行う線区における乗務員の要員確保の考え方を明らかにすること。
- 「えきサポーター」の配置駅と業務内容を明らかにすること。
- 「えきサポーター」を募集する各支社、各系統の業務量と要員需給を明らかにすること。